

平成十九年新春懇談会

新年も十日をすぎましたが、改めまして、新年明けましておめでとーございませう。

輝かしい新春を皆様とともに健やかに迎えることができ、またしたことを心からお慶び申し上げますとともに、町政の推進にあたり温かいご理解とご協力を賜りましたことに心から厚くお礼を申し上げる次第であります。

皆様には、何かとご多用の中、新春懇談会にご出席を賜りまして誠にありがとうございます。

新しい年を迎え、ここにあらためまして町政に対するご理解とご支援を心よりお願い申し上げます。

今年も「ま(い)の(し)年」でございます。

町民のみなさんが、私に託してくださいました思いを、より具体的に実現していけるよう、更なる前進を目指し頑張つてまいりますのでなお一層のご理解、ご支援をお願い申し上げます。

昨年を漢字一文字で表すと「命」という漢字だそうでございます。まして、まさに、ひとつしかない命の大切さを痛感した一年であり「命に喜び、命に泣き、命に不安を覚えた年」であつたと思ひます。

しかし、今年も年明け早々に親が子供に手をかける事件、子が親を、兄が妹をあやめるといった事件が続き、まさに、思いやりとか愛情という言葉をおぼろげに忘れたかのような年の始めとなつてしまいました。

私は、町民皆さんが、安心して暮らせる安全なまちづくりを進めるため、昨年十二月の議会において「礼文町安全で安心なまちづくりに関する条例」を制定させていただいたところでございます。

これからも、犯罪や事故のない、思いやりのある住み良いまちづくりをすすめてまいりたいと考えておりますので、町民皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

また一方で、昨年は大変明るい話題もございました。

皇室におかれましては四十一年ぶりの男子誕生となる秋篠宮家ご長男「悠仁（ひさひと）」親王がご誕生になられ、国中がお祝いムードにあふれ、喜びにつつまれたところでございます。

スポーツ界でも、トリノオリンピックで荒川選手が金メダルを獲得し、ワールドベースボールでは日本代表が奇跡の逆転優勝し初代王者になりました。

また、夏の甲子園で三連覇はできませんでしたが、駒大苫小牧高校のすばらしい活躍と北海道日本ハムファイターズが四十四年ぶりに日本一の栄冠に輝いたことは、私たちに明るい希望と感動を与えてくれたところでございます。

本町においても、香深井の大友健吉さんが永い間の消防団長の活動や町議会議員としての自活功労が認められ、昨年十一月の秋の叙勲に輝いたところであります、心からお祝いを申し上げる次第でございます。

さて、本町の基幹産業であります水産業の昨年の水揚げを見ますと、漁船漁業においては魚種ごとに変動があるなかで、天然コンブの回復や養殖コンブの増産によって大きく伸び、漁業全体としては前年を十五%以上も上回る三十三億円を超える水揚高となりました。今年も天然コンブは好漁であるとうかがっておりますので、地域経済にさらに明るさが出るものと大きな期待をしています。るところでございます。

これからも、なお一層の漁業経営の近代化と生産性の向上を図り、安心して漁業に専念できる環境づくりに努めてまいりたいと考えております。

一方、観光につきましては、ここ数年の観光入込み数が減少傾向にあり、昨年はその回復を期待したところでありますが、残念ながら更に減少となり、おそらく二十万人を下回ったのではないかと予想されることから、観光も厳しい時代を迎えていることを深刻に受け止めなければならぬと思っております。

私は、こうした厳しい現状を乗り越えるためには、礼文島の恵まれた自然環境の保護とPRや水産と観光の連携などを積極的に展開することはもちろん大事なことであります。今一度、礼文島観光について、考えていただきたいと思います。

それは、「自分の生活している環境にないものを求める」、それが観光のキーポイントであると言われております。かつての「離島ブーム」によって礼文には全国からたくさんのお客

光客のみなさんが訪れました。東京や大阪などにはない豊かな自然と可憐な高山植物、そして何といても温かい人との「ふれあい」を求めておいでになったと思います。

ですから、これからも、私達が真心で接すれば観光においてにらまれたみなさんは礼文島を楽しい思い出の中に刻んで帰られることと思います。私は、まさに、このことが観光の基本であり、一番大切なことだと思っています。

貴重で雄大な自然とそこに住む私達の心の中にこそ観光の基盤があることを今一度、地域ぐるみで再認識しなければならぬと考えているところでございます。

今、国の経済は、戦後最長の景気拡大と言われておりますが、地方においては未だに景気の回復を実感できない状況であります。

日本の政体は「小泉内閣」から「安倍内閣」に変わり「美しい国日本をつくる」時代に向かつていくわけでありますが、その基本にあるものは「構造改革の更なる推進」と「国と地方の財政再建」でありまして「骨太の方針2006」によって、国庫補助負担金の縮減や新型交付税の導入によって地方交付税の更なる削減が進められる一方で少子高齢社会の進行に伴う財政需要の拡大や地域再生、地域間競争への積極的な対応が求められております。

特に、今年には安倍総理の提唱する「美しい国づくり元年」と位置づけられておりまして、頑張る地方を応援する「地域再生」や「教育改革、教育再生」への取り組み、さらには本町の特色ある教育として全国から注目されております

「小中高の連携」や「礼文学の推進」など、将来を担う子供たちの教育環境の充実が求められているところでございます。

このほかにも、財政再建に向けたさまざまな改革のために迅速かつ的確に対応していかねければなりませんので、今後もわが町のような小規模な町村は厳しい時代を歩んでいかなければならない状況にございます。

こうした中で、市町村合併問題につきましては、昨年七月合併新法に基づき、北海道から「北海道市町村合併構想」が示されましたが、市町村の結びつきを「クラスター分析」という統計的手法によって示されたこの構想では「利礼三町という組合せ」でありました。

しかし、私は、これからの地方自治の本旨ともいふべき地方分権型社会に対応する基礎自治体が備えるべき「行政能力」「財政能力」「自治能力」の三つの能力の充実強化のために合併するという基本的な考えにたつたとき、人口規模が一万人にも満たない、かつ財政基盤も脆弱(ぜいじやく)な利礼三町だけの枠組みでは三つの能力の充実強化に大きな不安を持たざるを得ないことから、私は、利尻二町とともに、より人口の多い、財政規模の大きな行政体である稚内市を含めた枠組みを指さなくてはならないと考えているところでございます。

今後、利礼三町での取組みも必要になってくることと思いますが、もう少し時間をいただいた中で、具体的に進めていきたいと考えておりますので、ご理解を賜りたいと存じます。

さて、私は、就任以来「ふるさと礼文に元氣を取り戻そう！」をスローガンに掲げ、元氣な礼文づくりの事業として長年の夢でありました「温泉開発」を公約としてまいりました。

これまでも、礼文島は地質学的に温泉が出難いと言われたなかで、少しでもその可能性を探るべく昨年、温泉源の「電磁波探査」を実施し、その調査結果をもとに温泉開発推進会議や議員みなさんとの協議において、香深・入舟地区を掘削場所と決定させていただき、今年二月の北海道温泉審議会に間に合わせて、去る十二月二十日に念願の温泉掘削申請を行いました。

許可がおり次第、今年春から温泉掘削にとりかかりたいと考えております。ただ、適地とされた掘削場所は用地が狭いことから温泉入浴施設は別な場所に建てざるを得ないと考えておりまして、今後引き続き検討していくことにしておりますので、ご理解をいただきたいと存じます。

また、多くの皆さんから熱い想いが寄せられ、一億七千万円を超える大きなご支援をいただきました。心から感謝を申し上げる次第であります。お蔭様で、長年の夢の實現に向けて大きな一歩を踏み出すことができました。

「礼文島に温泉を」という町内外の多くの皆様方の温かいご支援に心え、礼文島に元氣を取り戻すためにも、必ずやこの事業を成功させなければならぬと考えておりますので、より一層のご理解とご協力そして更なるご支援を賜りますようお願いを申し上げます。

地域経済の低迷に加え、地方交付税の削減など、私たちを取り巻く環境は、今年も厳しい状況にございますが、私は、みなさまのお力添いをいただきながら、「元気を礼文づくり」のため「いのしし」のごとく突き進んでまいりたいと心を新たに行っているところでございます。

結びにあたり、礼文町の限りない発展と本日まで出席をいただきました皆様のお益々のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます、新春懇談会にあたってのご挨拶といたします。

本年も、どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

平成十九年一月十日

礼文町長 小野 徹